

Monthly Report



SENDAI UNIV.
PUBLIC RELATIONS

Vol.205 / 2023 .MAY

(月1回発行)

27年ぶりの春季リーグ戦優勝

／男子ハンドボール部



高橋学長への優勝報告

〈目次〉

・27年ぶりの春季リーグ戦優勝／男子ハンドボール部	1
・仙台六大学野球春季リーグ優勝／硬式野球部 ・東北地区春季リーグ優勝／軟式野球部	2
・10年ぶり春季リーグ戦優勝／女子バドミントン部 ・春季リーグ戦全勝優勝／男子バレーボール部	3
・ドローン研究に関する進捗状況について ・仙台大学川平キャンパス公開講座	4
・「高校スポーツの安全を守る」Vol. 61	5
・令和5年度新任者紹介	6

5月10日（水）から14日（日）までの期間、岩手県花巻市で開催された東北学生ハンドボール春季リーグ戦において、男子ハンドボール部が、平成8年以来27年ぶりの春季リーグ戦優勝を果たしました。リーグ戦前からチームの調子が上向き、ベストな状態で大会に臨むことができました。

近年上位を争う、東北福祉大学と富士大学との試合は、いずれも前半のビハインドから後半逆転の試合展開となりました。劣勢になっても、集中力を保ち、粘り強いディフェンスで持ち堪えました。優勝が決まった翌日の試合も、集中力を切らすことなく、全勝でリーグ戦を終えることができました。

今大会の結果、8月に福井県で開催される東日本インカレへの出場権を獲得しました。関東勢に競り勝って、全日本インカレの出場権を獲得できるように精進します。引き続き男子ハンドボール部へのご声援よろしくお祈いします。

令和5年度 東北学生ハンドボール春季リーグ戦

対 秋田大学 ○ 35-31
対 東北学院大学 ○ 35-19
対 東北福祉大学 ○ 28-22
対 富士大学 ○ 25-23
対 青森大学 ○ 44-25

平成8年以来 27年ぶり5回目の春季リーグ戦優勝

優秀選手賞 小池 凜（体育学科 4年生）
海老子川 隼斗（体育学科 4年生）
加藤 大晟（健康福祉学科 4年生）

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報課までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報課までご一報ください。

仙台大学 広報課

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

仙台六大学野球春季リーグ優勝／硬式野球部

5月22日（月）、仙台六大学野球春季リーグの試合において、硬式野球部が東北福祉大学との直接対決を戦い、優勝を勝ち取りました。

試合は仙台大学から勢いよく始まりました。第3回では2アウト1・2塁から、3番・辻本選手が右中間を突き破るタイムリースリーベースで先制し、2点を獲得しました。さらに1点を追加し、試合をリードしました。

7回、東北福祉大学が反撃に転じ、3対3の同点に迫いつかれましたが、その裏、仙台大学の打線が再び動き出しました。満塁となった状況で、2番・小田倉選手がセンター前にタイムリーヒットを打ち出し、再びリードを奪い取りました。その後も1点を追加し、5番・菅原選手も1塁の脇を抜ける2点タイムリーで一挙に5得点を獲得し、東北福祉大学を圧倒しました。

9回には、仙台大学・川和田投手が試合を締めくくりました。2015年以来となる春季リーグ優勝と、全日本大学野球選手権への出場権を見事獲得しました。

全日本大学野球選手権大会は、6月5日（月）に開幕します。硬式野球部は、大会2日目の6月6日（火）に神宮球場で開催される第1試合で、神奈川代表の桐蔭横浜大と対戦します。



東北地区春季リーグ優勝／軟式野球部

軟式野球部は、南東北の8大学が参加した令和5年度 東北地区大学軟式野球連盟 春季リーグを7勝1敗の成績で優勝を果たし、8月の全日本選抜大会（SUMMER CUP2023）の出場権を得ました。

学生が、監督兼主将を務め、女子マネージャーも交えて協議し、週数日の練習日を効率的に活動し好成績を残しました。引き続き、軟式野球部の応援のほどよろしくお願いいたします。

令和5年度 東北地区大学軟式野球連盟 春季リーグ 最終順位

※勝敗数が同じ場合は直接対決の勝敗によって上位を決定

- 1 仙台大学 7勝1敗＜優勝、全国大会出場＞
- 2 東北学院大学 7勝1敗
- 3 東北福祉大学 5勝2敗
- 4 山形大学 4勝3敗
- 5 宮城教育大学 4勝3敗
- 6 日大工学部 2勝5敗
- 7 東北大学 1勝6敗
- 8 尚絅学院大学 0勝7敗



バドミントン部、女子10年ぶり春季リーグ戦優勝

5月22日（月）、23日（火）に宮城野体育館にて東北学生バドミントン春季リーグ戦が開催されました。本学バドミントン部は男子が3位、**女子が10年ぶり6回目の優勝**となりました。

女子は最終戦を前に3位でしたが、3-0で勝利すると優勝の可能性があるために最終戦は攻めのオーダーでのぞみました。第1シングルの齋藤梓（スポーツ栄養学科2年生）がエース対決を制し、第2シングルの千葉寧々（スポーツ栄養学科1年生）がその勢いを受け継ぎ相手を圧倒。第1ダブルスも吉田亜由美／齋藤梓（体育学科4年生／スポーツ栄養学科2年生）が圧勝して3-0で勝利。東日本国際大学、東北福祉大学と2勝1敗で並びましたが、取得マッチ率で東日本国際大学.615に対して本学.636とわずかに上回り、大逆転優勝となりました。

前日の東日本国際大学戦において、第2ダブルスの中村彩乃（スポーツ栄養学科3年生）が試合中負傷のアクシデントを乗り越えての勝利、選手たちは自分たちの優勝がわかっておらず、あたふたしながら「待て待て待て待て」「いったん落ち着こう」「これ計算間違いじゃない？」「本当に本当？」というように半信半疑でしたが、本部からの正式通達に涙の歓喜となりました。



春季リーグ戦全勝優勝／男子バレーボール部

第61回東北バレーボール大学男女リーグ戦が4月22日（土）から開幕しました。順位決定リーグでは、山形大学、東北学院大学と対戦しましたが、2試合共にストレートで勝利し、全勝優勝を決めました。

【順位決定リーグ】

5月27日（土） 仙台大学 3（25-21、25-15、25-20）0 山形大学

5月28日（日） 仙台大学 3（25-16、25-23、25-19）0 東北学院大学

引き続き、仙台大学男子バレーボール部の応援のほどよろしくお願いいたします。

＜男子1部最終順位＞ ※予選と順位決定リーグの勝敗を合計

優勝	仙台大学	10勝0敗
準優勝	東北福祉大学	6勝4敗
第3位	山形大学	5勝5敗（セット率1.2353）
第4位	東北学院大学	5勝5敗（セット率0.9474）
第5位	福島大学	6勝4敗
第6位	八戸工業大学	5勝5敗
第7位	東北公益文科大学	3勝7敗
第8位	東北大学	0勝10敗



ドローン研究に関する進捗状況について／現代武道学科 金 一坤 講師

ドローン技術の進化は目覚ましく、その活用範囲は日々広がりを見せています。2022年12月より、レベル4飛行の実現により、ドローンを有人地帯（第三者上空）での補助者なし目視外飛行が可能となりました。これは物流、インフラ点検、警備などのあらゆる分野においてドローンの利活用がさらに可能になることを意味します。特に警備や警護といった分野では、ドローンが従来の手法を大きく進化させる可能性を秘めています。私自身、教員であり研究者として、この先進的で社会的意義のある領域での研究に、大いに意気込んでおります。

ドローンが持つ能力、例えば広範な視野を持つこと、迅速に移動できること、遠隔操作、自律飛行が可能であることなどは、警備や警護の分野で大きなメリットとなります。しかし、これらの機能を最大限に活用し、さらに安全性と信頼性を確保するためには、まだ多くの課題が残されています。

私の研究目標は、これらの課題を解決し、ドローン技術を警備・警護の分野で実用化することです。具体的には、AIを活用した高精度な映像認識・解析技術の進化、人間の代わりに危険な場所及び業務を可能とするシステムのインテグレーション、ドローン操縦人材育成などの研究を行う予定です。



仙台大学川平キャンパス公開講座 第1回講座を実施

本学は、令和5年5月1日（月）、カメイ株式会社ヘルスケア事業部と、川平キャンパス公開講座への支援を目的とした覚書を締結しました。川平キャンパスが、本年2月に完成したことを契機とし、本キャンパスを活用した市民向けの公開講座を5月27日（土）に開講するにあたり、その主旨に賛同頂いたカメイ株式会社様より支援を頂きました。

初回講座の当日は、高橋学長及び、カメイ株式会社執行役員ヘルスケア事業部の佐藤部長にもご出席いただき、講座開講に対するお祝いの挨拶から始まり、次いで、吉井教授及び小勝准教授の指導による、情熱的な「サルサダンス」が始まりました。30名弱の方が参加され、1時間半の短い時間ではありましたが、言葉を超越した魅力的なダンスを思う存分楽しんだ様子でした。終了後には、参加者より、2回目の「サルサダンス」を希望する声が多数寄せられました。

本講座では、原則、毎週土曜日の午前（10時から11時30分）に、年間40講座以上の実施を計画しております。



「高校スポーツの安全を守る」Vol. 61

助手 浅野 勝成

「トレーニングのためのトレーニングであってはならない」最近よく口にする言葉です。

S&Cのトレーニングは、基本的には競技力の向上を目指すためのものである。で、競技力向上のためのトレーニングとなります。一方で、挙上重量を追い求めるだけ、筋肉を大きくすることだけに意識してトレーニングに取り組んでしまう生徒もいます。扱う重量が増えれば増えるほど、筋肉が見た目にも分かるほど大きくなればなるほど、達成感を味わうことで出来て快感を得られます。そのような意識になってしまうのは、ある種仕方のないことかもしれません。だからこそ、S&Cコーチが競技力向上のためのトレーニングという言葉を繰り返して発していく必要があると思います。

競技力向上のためのトレーニングという意味では、ウエイトトレーニングの指導だけではありません。競技力向上に必要な体力要素を分解して、その体力要素を効果的かつ時間効率良く向上・改善していく手段を用いて指導にあたります。従って、ストレッチ、ジャンプ、スプリント、アジリティ、持久系なども指導します。ただし、ウエイトトレーニングで得られる効果は幅広いものがあるので、ウエイトトレーニングが指導の軸になります。

しかし、こちら側が競技力向上のためのトレーニングを工夫して提供したとしても、実践する側の意識が「トレーニングのためのトレーニング」では効果は薄くなると感じています。良いトレーニングは、指導者側と実践側の相互作用で作り上げていくものですので、トレーニングに対する考え方の構築には入念していかなければと思います。

高校生の段階で十分に理解することは難しいかもしれませんが、その考え方を浸透できればと思い、日々精進しています。

令和5年度 新任者紹介

5月1日付で、事務職員1名が着任いたしました。

職員

<p>いずみ けいすけ 和泉 恵介</p> <p>(施設管理課)</p> 	<p>学生や教職職員をはじめ、 本学を利用する皆さんが、気 持ちよく過ごしてもらえるよ うに、設備の維持管理に努め ていきたいと思えます。ど うぞよろしくお願いいたしま す。</p>
--	---

～仙台大学教職員の共通理解事項～

仙台大学の「建学の精神」、「基本理念」、「使命・目的」

建学の精神

「実学と創意工夫」

仙台大学の経営母体である学校法人朴沢学園(明治12年開設)の学園創始者は、建学の精神として「実学と創意工夫」を掲げ、「創意工夫と先見性をもって実学を志し、実学に根ざした人格形成と人材育成を図る」ことをもって先進的な女子教育を行い、寺子屋方式に代え一斉教授法を導入し明治時代の裁縫教育に一大革新をもたらした。

その考え方は、体育系単科大学として昭和42年に開学した本学にも受け継がれ、人格形成の要素である体育・徳育・知育のうち「体育」に教育・研究の重点を置きつつ、実学と創意工夫に根差した広い教育研究領域を探求することに継承されてきた。なお、建学の精神の意図するところについては、開学時の第1回入学式・初代学長告辞にも「社会で充分活動できるための智識と技能を鍛えた心身ともに健康である人間をつくることであり、仙台大学は、企業等における健康管理・健康指導の企画・実施担当者の育成、各種の運動機構等における実技指導者、ならびに学校体育の指導者を養成することを目的としております」と端的かつ明確に示されている。

基本理念

「スポーツ・フォア・オール」

仙台大学は、昭和42年、単一学部・単一学科で開学した。その後、平成7年度以降、順次学科を増設し、現在では6学科構成としている。また、学科増設に加え平成10年度には大学院スポーツ科学研究科(修士課程)も新設している。こうした教育研究領域の拡大に伴い建学の精神を基盤に据えつつ、大学の新たな基本理念として定めたのが「スポーツ・フォア・オール」である。

「スポーツ・フォア・オール」とは文字通り「スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に」を、すなわち「乳幼児から元気なお年寄りはもちろん、寝たきりのお年寄りまで。そして、性別や障がいの有無を問わず、トップアスリート、生活の中での楽しみや健康の励みとしてスポーツをする人、スポーツをみる人が好きな人、スポーツをささえる人などすべての人を対象としてスポーツを科学的に探究すること」を意味している。

使命・目的

基本理念を踏まえた仙台大学の使命・目的は、仙台大学学則第2条および仙台大学大学院学則第2条にそれぞれ示している。

■仙台大学学則 第2条

本学は、体育・スポーツ、健康福祉、スポーツ栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する諸科学を教授研究し、当該分野における指導者としての専門的知識と技能を体得させるとともに、高い識見と広い視野とをもって、社会の指導的な役割を果し得る有能な人材を育成することを目的とする。

■仙台大学大学院学則 第2条

本大学院は、広い視野に立って、体育・スポーツ、健康福祉、スポーツ栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する学術の理論と応用を教授研究し、当該分野における高度の専門的な職業等を担うための卓越した能力を培い、もって体育・スポーツ及び健康分野の発展に寄与する有為な人材を育成することにより、広く社会に貢献することを教育研究上の目的とする。

その他 (リンクを貼っていますので、項目をクリックして閲覧ください)

■人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的(仙台大学学則別表第一)

■3つのポリシー ①学部 ②大学院

③体育学科 ④健康福祉学科 ⑤スポーツ栄養学科

⑥スポーツ情報マスメディア学科 ⑦現代武道学科 ⑧子ども運動教育学科

■朴沢学園中期経営計画

■事業計画